

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第2回地域移行・地域生活支援部会			
(2) 開催日時	平成28年6月9日（木） 10:00～12:00			
(3) 開催場所	消費者生活センター第5集会室			
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：青山 明子）			
	白井 絵里子	志村 陽子	鶴田 雅英	福田 功志
	岡本 洋	齋藤 信子	林 達彦	山根 聖子
	山田 悠平	伊藤 朋春	田中 庸介	岡田 あい子
	井岡 幸子	山田 紗梨	藤牧 裕佳子	川島 浩子
	区職員：金子 江理子（健康医療政策課）			
	関係者：平林 直樹（障がい者総合サポートセンター居住支援部門） 石毛 哲洋（障がい者総合サポートセンター相談支援部門）			
事務局：酒井 敏彦、井村 陽介、岩下 祐輔（障害福祉課） 江波戸 宏、星 美保（障がい者総合サポートセンター）				
(5) 内容・要旨	<p>1 司会の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業部会の中からローテーションで行っていく。 ・本日は伊藤委員 <p>2 連絡・報告事項</p> <p>(1) 出欠席者の確認</p> <p>(2) 資料の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見カードの活用について <p>(3) 年間スケジュール等の確認</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 今年度の部会の方向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年計画でニーズの掘り起こし、ニーズから検討課題を絞り検討し次計画に反映する。 (作業部会からの年間スケジュール案提示について) ・保健師から地域移行で苦勞すること、育成会親の会からも話をしてもらいたい。 ・年度スケジュール（案）9月、相談は軽度の知的が多いため重度知的ではなく知的の話としてほしい。重度の方が地域で暮らしていてすごいで終わらないように、どうしてすごいに至ったのかまで掘り下げる。 ・事例検討ではなく、当事者から見て「足りない」「いやだ」が聞ける場が有ればと思う。 ・家族ケアを抱えている方に「家族はこうしている、困っている」とゲストスピーカーに話してほしい。 ・年度スケジュール（案）11月、医療的ケアの話は全体に流し勉強会（シ 			

ンポジウム) の形もよい。

- ・ 具体的な課題について話し合う機会があればと思う。
- ・ 地域生活安定化支援事業・コーディネーターの話が聞きたい。
- ・ さぽーとぴあ二期工事について意見が言えるものであれば言いたい。
- ・ 重度知的障害者に自立生活の事例を出せれば良い。
- ・ 脊髄損傷の当事者、支援者の話も聞きたい。
- ・ 他部会との連携について、相談支援部会の事例検討見学や合同事例検討実施はどうか。
- ・ 地域移行支援の話を保健師に聞きたい。
- ・ 課題検討は年度スケジュールの最後ではなく、もっと前に揉んであげていく事が良い。
- ・ GHに入居された方のそこに至ったプロセスを病院・支援者から聞きたい。
- ・ 当事者に話してもらって事で課題が明確になると思う。
- ・ 先進事例の共有をしていきたい。
- ・ 地域で支えるしくみが現状のままなら施設に行かなければならない。行かない仕組みを作っていく事が必要。
- ・ 親が亡くなったら施設という頭になっている。
- ・ 最終的にここに向かうというイメージが必要。
- ・ おおた障がい施策推進プランの地域生活支援拠点等のイメージ図について、本人を中心としたイメージ図になればよい。
- ・ イメージ図に書き込みをしてはどうか。
- ・ 年度スケジュール (案) 8月、基幹相談支援センターがどのように機能していくのか話して考える事も必要。
- ・ 年度スケジュール (案) 8月、二期工事、機能、地域生活支援拠点を含めた話しをしていく。

(2) 年間の議題 (案) について

- ・ 7月：地域移行支援のための相談支援体制について
制度説明、現場の話、ロールプレイ
- ・ 8月：さぽーとぴあについて
二期工事、基幹相談支援センター、地域生活支援拠点
- ・ 9月：知的障害者の自立生活 事例検討
- ・ 10月：中間報告に向けてのまとめ
- ・ 11月：医療的ケアを必要とする身体障害者の自立生活
- ・ 12月：当事者 (大田区在住)、又は支援者の話
- ・ 1月・2月：振り返りとまとめ